

機 関 名	広島大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	グローバルインターンシップ推進拠点の形成		
主たる研究科・専攻名	大学院国際協力研究科		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 藤原章正		

[教育プログラムの概要]

1. 教育プログラムの必要性と目的

国際協力学、教育学、社会科学、総合科学、工学、医学、農学などの応用分野を教育研究対象とする大学院では、国境を超えて活躍する研究者や高度専門職業人の養成を目指して、海外インターンシップなどの実践的教育方法を採用し、成果を収めつつある。

こうしたインターンシップを実施するにあたり、受入機関との合意形成やリスク管理、コミュニケーション能力や問題解決能力のための基礎教育などは各々の部局が独立に実施しており、各プログラムの努力や成果が大学全体に反映されることは少なく、効果の単純和に留まってきた。しかし、受入機関からみると、各々の部局のニーズを個別にマッチングさせることは非効率であり、また完全な情報を入手するすべもないことから、こうしたことが大学と企業等との持続的な連携関係を阻害する要因になる可能性を否定できない。また、国際社会の動向を考えると、日本人学生を途上国等に派遣する海外インターンシップの推進に傾注するのみではなく、留学生が日本国内の企業・機関でインターンシップを経験する機会を増やしたり、途上国の研修生を別の第三国に集め、日本の経験知をもとにインターンを行う現場で研修して教育人材を育成したりする新しい形態の「グローバルインターンシップ」への改善が求められるようになってきた。

そこで、本教育プログラムでは、「**グローバルインターンシップ推進拠点(以下、G.ecoプログラム拠点と呼ぶ)**」を設立し、国際協力分野のような複数の研究科・専攻にまたがる融合複合領域の高度専門職業人や研究者を育成する全学的大学院教育の枠組みを提供することを目的とする。具体的には、各研究科のインターンシップを中心とする現地教育およびその事前教育と事後教育を統括し、融合的な研修テーマを創造する教育プログラムの推進拠点を形成する。加えて、継続的にグローバルインターンシップを実施するためにこれまでに教育交流実績の深いフィリピン、ザンビア等にサテライトとなる**海外拠点づくり**を試みる。

2. 教育プログラムの内容と特色

国際協力研究科(IDECC)は学内外の学部卒業生のなかで将来国際協力の分野で活躍する学生が集まる文理融合・学際型教育研究を目指す大学院であり、融合複合型教育の実践の場として適している。また、本研究科は設立当初から教育学研究科、社会科学研究科、総合科学部(現総合科学研究科)、工学研究科等の学部・研究科から協力教員として授業協力、学生指導協力を得る全学協力体制が確立されている。そこで、国際協力研究科の教育プログラムを基盤として、G.ecoプログラム拠点により博士課程前期および後期の教育プログラムを提供する。本プログラムの取組の特徴は以下のとおりである。

- ① 複数の研究科が共有する実践的教育の学習教育目標の設定と教育方法、継続的改善方法の確立
- ② **融合複合分野の新しい研究テーマを創造する**博士課程後期教育とその研究テーマをグローバルインターンシップの研修課題として体験する博士課程前期教育の連携方法の確立
- ③ 大学が創造する研究テーマと社会(グローバルインターンシップの派遣機関等)が必要とする**研修課題のマッチング方法**の確立

また、この特徴ある教育プログラムを実現するために以下の方法について工夫する。

- ① **大学全体のリスク管理体制**の改善
- ② 事務支援体制の強化と**現地体験型ファカルティディベロップメント**の実施
- ③ 推薦入試などによる**海外での実務経験者のキャリアアップ**を目指した積極的な受入れ

3. 期待される成果

G.ecoプログラム拠点を形成することにより、既存の学問領域に留まらない多様な分野に適応できる人材の排出、国際援助の第一線をリードする日本人研究者の養成と、世界中から集まる留学生や研修生の高度専門職業人としての育成が可能となる。このことにより、広島大学が学則に掲げる教育目的「…諸学問の総合的研究及び先端的研究を推進して学問を切り開くこと並びに…高度の研究・応用能力と豊かな学識を有する研究者及び高度専門職業人を養成する…」を達成できる。また、本プログラムは全国の総合大学が目指す分野横断型、融合複合型大学院教育のプログラム設計のモデルの1つを示すものであり、教育における大学院と社会との持続性のある連携のあり方を示唆する点で、**融合複合分野における大学院教育の改革**に貢献することが期待される。